

BCPの考え方に基づく病院災害対応マニュアル整備指針

1 指針の必要性

(1) 現状

東日本大震災をはじめ、北海道胆振東部地震や西日本豪雨など、近年、多発する大規模災害の発生に備え、病院は自ら被災することを想定し、災害時においても必要な医療が継続して提供できるよう、BCPの考え方に基づく災害対応マニュアル(病院BCP)を整備しておくことが必要



平成23年紀伊半島大水害の被害状況
※今後、本県においても豪雨による浸水被害の発生により病院機能が停止する可能性あり

(2) 課題

(病院BCP整備が進まない理由)

○病院BCP整備済の病院は、災害拠点病院も含め県内全病院(93病院)のうち、約4割に留まっている

○病院BCPの整備には、被害想定の設定や災害時優先業務の選定など整備に関するノウハウと、職員参集体制の構築や事前対策計画の策定などの院内体制の構築が必要であり、特に、中小規模の病院で病院BCP整備が進んでいない状況(地域での役割分担)

○個々の病院が病院BCPを整備するだけでは、入院患者の転院搬送における受入れ先の選定などにおいて、迅速な対応が実施できない可能性が高い

モデル地域での検討

＜原因を分析した結果…＞

主に中小規模の病院を対象に、病院BCP整備のための検討事項や検討手順などを示した手引きを策定するとともに、地域毎に研修会を開催し、病院のBCP整備の取組を、きめ細かく支援することが必要と判断…

BCPの考え方に基づく病院災害対応マニュアル整備指針

2 指針の策定

(1) 指針の特徴

- ①被害想定の設定
南海トラフ地震や千年に一度の降雨を念頭に、より本県の災害発生の可能性に適合した被害想定を提示
- ②全職員の参加
全職員の参加が得られるよう、業務の検討順序と該当部署を例示
- ③急性期への対応
災害発生から一週間程度までの急性期に特化
- ④役割分担の検討
地域別研修会において、病院規模、機能、立地等から地域における病院の役割や使命の設定を支援
- ⑤段階的な手順提示
地域別研修会を活用し、病院BCP整備を段階的に推進

(2) 地域別研修会の開催

病院個々の対応ではなく、地域としての対応(点ではなく面)が可能となるよう、県内を8地域に区分し、地域別に研修会を開催することにより、病院間の役割分担も考慮しながら病院BCPの整備を支援



第3回桑員地域研修会
(R元.10.11)

4 病院BCPの策定

令和3年度中に地域別研修会を全地域で開催し、令和4年度中に県内全病院で病院BCPの整備が完了(研修会終了後も、BCMによる病院BCPの継続的な見直しを支援)

3 指針の構成と概要

I 総論

(第1回研修会資料)

- 1 災害医療マニュアルの整備
- 2 地域医療圏ごとの病院BCP整備
- 3 病院BCPに必要なリソース
- 4 病院BCPの継続した取組(BCM)

○災害医療マニュアル再整備の必要性、地域における病院の役割分担の検討、BCM体制の構築など、病院BCP整備に係る基本意識の涵養
※総論として、主に病院管理者である院長を対象とした研修会において提示

II 各論

(第2回研修会資料)

- 1 被害想定の設定
- 2 病院使命の検討

○被害想定に基づく病院の被災状況等の現状把握と脆弱性を評価
○現状を踏まえたうえ、地域における災害時の病院の役割分担の検討と使命を設定

(第3回研修会資料)

- 3 災害時優先業務の選定
- 4 行動計画の作成
- 5 在庫一覧の作成

○災害時優先業務の選定と各部門別の行動計画を作成
○災害時優先業務の実施に必要な在庫を一覧に整理

(第4回研修会)

- 6 災害時の活動体制
- 7 事前対策計画の策定
- 8 BCM体制
- 9 文書化(病院災害医療マニュアルの整備)
- 10 添付資料

○職員参集基準、災害対策本部の機能等、災害時の病院の活動体制を検討
○脆弱性の評価に基づき事前対策計画の策定
○病院BCPの検証と見直しによるBCMサイクルの確立
○アクションカード記載をはじめとした病院BCPの文書化
※病院BCP初版の作成

III 添付資料